

●多民族国家Ⅱ中国はいかにして一体となりうるのか。現代中国の民族論をリードしてきた費孝通の基調論文を軸に、歴史・民族・考古の論考で構成した原典を翻訳。

中華民族の多元一体構造

費孝通編著／西澤治彦・塚田誠之・曾士才・菊池秀明・吉開将人共訳

費孝通の「中華民族の多元一体構造」は中国においても考古学・民族学・人類学・歴史学・政治学など、各分野から注目を集めることとなり、今日に至るまで、さまざまな波紋を投げかけている。当然、日本においてもこの論文は発表当時から注目され、中国研究者の間で話題になり、雑誌論文などにおいても紹介や言及がなされてきた。

この論文は、中国内外を問わず、近年の中国社会科学の分野では最も引用される回数が多い論文の一つといつてよい。さらには、社会科学界の分野に留まらず、「中華民族論」の新たなナショナルリズムとも連動し、近年では中国における民族政策のバックボーン的な位置を占めるなど、社会的・政治的な影響すら及ぼしているといえる。

中華民族の多元一体構造とは、簡単に言うと、漢族と五五の少数民族は、相互に依存した、分割不可能な一体構造をなしているというものである。各民族は、民族としてのアイデンティティーを持ち合わせている一方で、その下位にはそれぞれ重層的な構造を擁している。多元一体構造においては、この五六の民族レベルを基層として、その最上位に、中華民族というアイデンティティーが存在する。そして、分散から多元の統合には、凝集する核心が必須であるが、漢族がその役割を果たしてきた。また各層のアイデンティティーは、決して他者を排斥するものではなく、統一体の内部は、多言語的、多文化的な複合体をなしている、というものである。

こうした観点の基礎には、中華文明の起源は中原にあり、そこから徐々に周辺に拡大していったとする、従来の中原一元論に対して、中原以外の多元的な起源を実証した、七〇年代後半以降の考古学の新しい知見がある。しかしこの多元的起源説は、費孝通の多元一体論にとっては土台であって、結論ではない。むしろ考古学の知見を出発点として、費孝通は民族学や歴史学の研究成果を統合しながら、多元一体構造が形成されていった過程を再構成している。

●目次

前書き

- 1章 費孝通 中華民族の多元一体構造 (西澤)
 - 2章 谷 苞 中華民族の共通性を論ずる (曾)
 - 3章 谷 苞 再論中華民族の共同性 (曾)
 - 4章 陳連開 中国・華夷・蕃漢・中華・中華民族…一つの内在的関係の発展と認識過程(塚田)
 - 5章 陳連開 中国新石器文化に見る多元性…地域発展とその凝集・拡散構造 (吉開)
 - 6章 賈敬顔 「漢人」をめぐる考察 (菊池)
 - 7章 賈敬顔 「契丹」…漢人の別名 (西澤)
 - 8章 賈敬顔 歴史における少数民族内の漢族的要素 (菊池)
 - 9章 谷 苞 古代匈奴遊牧社会の歴史的位置づけ (吉開)
 - 10章 谷 苞 前漢王朝による河西四郡設置の歴史的意思 (吉開)
 - 付論 費孝通 エスニシティの探究…中国の民族に関する私の研究と見解 (塚田)
- 解題 (西澤)
地図・索引

体裁

・A5判・並製・カバー
・三八〇頁

定価

・三一五〇円
(本体三〇〇〇円)

注 文 書

出版
地方

流通センター
取扱品

発売

風響社

TEL: 03-3828-9249

税込み

三一五〇円

部

費孝通編著／西澤・塚田・曾・菊池・吉開共訳
中華民族の多元一体構造

ISBN978-4-89489-118-0 C1039 ¥3000E

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所

お電話

月 日

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14-9
電話〇三(三八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp